

## 施策6-①

## 地域における学びの充実

目指す姿

誰もが生涯を通じて学ぶことができるよう、自主的な活動の機会や場、情報の充実が図られ、それぞれが豊かな心をもって地域の中で学ぶことができます。

## 施策の現状と課題(前期基本計画)

・市民センター(中央公民館・図書館)について、施設の老朽化が進んでいることや、市民の学びや居場所の拠点となるよう、今後のあり方等について検討が必要です。また、公民館のフリースペースの拡大やインターネット環境の整備を行ったことにより、利用者の裾野の拡大を図りましたが、市民センターが市民の居場所となるよう、他施設等との連携も含めて子どもから高齢者まで誰もが利用しやすい環境の整備が求められています。

・公民館では様々な年代に向けた多彩なプログラムを提供していますが、一方で、受講する市民の高齢化や固定化が進んでいます。若年層は、地域の中で学ぶことや、地域と交わる機会が比較的に少ないため、若年層向けの学習機会の提供により公民館を身近に感じてもらうことで、受講者の裾野を広げ、公民館が地域の課題解決や仲間づくりの場、居場所や社会教育活動の相談の場として機能することが求められています。

・図書館については、利用者から蔵書数が少ない、閲覧できる場所が少ない、自習室がない等の意見があり、公民館と同様に地域の課題解決や学びの拠点として機能することや、図書館利用率の向上のためにアウトリーチの視点を含めて取り組むことが求められています。



## 方向性1 学びの環境づくり

・市民の地域での学びや居場所づくり、市民同士の交流等を促進するため、今後の市民センターのあり方について様々な市民からの意見を踏まえて検討していきます。また、公民館や図書館等が地域での学びや居場所を支える場となるよう、子どもから高齢者まで誰もが利用しやすい環境づくりに努めます。

・地域における団体や学校等を含めた関連施設等が連携し、一人ひとりが地域の身近な場所で学ぶことができる環境の充実を図ります。



現状	課題
<p>・狛江市民センター改修等基本方針に基づき、狛江市民センター改修を考える市民ワークショップ、中間報告会を実施し、アンケート等の内容を踏まえ、「狛江市民センター改修基本構想(案)」を取りまとめました。また、関係部署と連携してパブリックコメント・市民説明会を実施し、市民・利用者の意見等を基本構想に反映させたことに加え、市民・利用者への基本構想の内容周知に努めました。また、施設整備に向けた基本設計を行い、現在実施設計を進めています。(公民館)</p> <p>・利用団体の活動機会を増やすため、公民館の利用区分を3区分から4区分へ変更します。(公民館)</p> <p>・狛江市民センター改修等基本方針に基づき、新図書館の整備に係るワークショップ、中間報告会を実施するとともに、「新図書館整備基本構想(案)」を取りまとめました。また、関係部署と連携してパブリックコメント・市民説明会を実施し、市民・利用者の意見等を基本構想に反映させたことに加え、市民・利用者への基本構想の内容周知に努めました。また、関係部署や事業者等と調整しながら施設整備に向けた基本設計等を行いました。(図書館)</p> <p>・地域センター図書室等配送便を運行し、各図書室で提供する資料の充実と地域の身近な場所で図書館サービスを楽しむ環境づくりを推進したことに加え、学校協力便の運行及び協力貸出を実施し、学校図書館で提供する資料が充実しました。(図書館)</p>	<p>・市民センター改修中(令和6年9月～令和7年10月予定)の公民館利用団体の活動場所として、主に西河原公民館を利用していただく予定ですが、その他の代替施設も確保する必要があります。(公民館)</p> <p>・市民センター改修中も市民の学びの機会を確保するため、公民館事業を西河原公民館で集約して実施します。(公民館)</p> <p>・休館に伴う臨時窓口への移行期間においても、市内全域での図書館サービスを確実に実施するため、人員体制やサービス実施内容の検討を進める必要があります。(図書館)</p> <p>・今後の図書サービスについては、様々なライフスタイルや年代に応じて多様な市民ニーズがあることから、新設図書館や改修後の市民センター図書コーナー、各図書室、電子図書館等の施設・機能を有効活用することのできるネットワーク機能を実現し、市内全域の図書サービスを充実させることが必要です。(図書館)</p>
<p>参考指標</p>	
<p>・公民館利用者数(人) 【目標値(170,000)】 (H30) (R2) (R3) (R4) 150,316 → 62,375 → 73,439 → 107,588</p> <p>・図書館の利用率(%) 【目標値(20.0)】 (H30) (R2) (R3) (R4) 16.0 → 11.7 → 14.0 → 13.9</p> <p>・昨年1年間に学びの活動・体験をした市民の割合(%) 【目標値(29.0)】 (H30) (R2) (R3) (R4) 24.4 → 37.8 → 35.8 → 27.6</p>	

施策の現状と課題(前期基本計画)	方向性2 生涯を通じた学びの実現
<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館では様々な年代に向けた多彩なプログラムを提供していますが、一方で、受講する市民の高齢化や固定化が進んでいます。若年層は、地域の中で学ぶことや、地域と交わる機会が比較的に少ないため、若年層向けの学習機会の提供により公民館を身近に感じてもらうことで、受講者の裾野を広げ、公民館が地域の課題解決や仲間づくりの場、居場所や社会教育活動の相談の場として機能することが求められています。</li> <li>・図書館については、利用者から蔵書数が少ない、閲覧できる場所が少ない、自習室がない等の意見があり、公民館と同様に地域の課題解決や学びの拠点として機能することや、図書館利用率の向上のためにアウトリーチの視点を含めて取り組むことが求められています。</li> <li>・生涯学習団体の更なる活性化及び生涯学習の更なる推進を目的として、市内の生涯学習団体をまとめた冊子やその電子版を作成していますが、多様化する市民の学習ニーズに応えるため、学ぶ機会の提供や必要な情報発信、学びを通じた交流による仲間づくり、関係機関等と連携した学びの支援等を行っていく必要があります。また、市民の学びの成果の活用や地域への還元等、学びの循環のための仕組みづくりが求められています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の学びや活動の多様なニーズを把握し、各種講座を開催する等、関係機関等との連携により計画的に学びを支援していき、ライフステージに応じて誰もが地域の中で自分らしく学び、世代を超えた交流を通じた仲間づくりや活動ができる機会の充実に図ります。図書館においては、市民の学びと情報の拠点として、利用率や利便性の向上を図ることで地域での学びや社会参加を支援し、また、子どもが幼い頃から読書に親しむ機会の充実に図ります。</li> <li>・各種団体や大学、事業者等と連携し、学習・活動の場の確保を推進するとともに、地域で活動している団体等の情報を効果的に発信していくことで、市民の学びを支援します。</li> </ul>
現状	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内団体の文化及びスポーツ等の活動の場として、学校施設を開放し、活動の推進を図っています。(社会教育課)</li> <li>・子ども、高齢者、子育て世代、外国人、障がい者など多様なニーズに対応した公民館事業を実施しています。(公民館)</li> <li>・大学や民間事業者等と連携した公民館事業を展開しています。(公民館)</li> <li>・こまえ電子図書館における電子書籍及び電子雑誌閲覧サービスの提供と掲載タイトルの充実、子ども読書関連イベントとして市内のおはなしグループと連携したおはなし会の実施や、子ども一日図書館員・図書館探検等の体験型イベントの実施等により図書サービスの充実に努めたほか、「第四次粕江市子ども読書活動推進計画」が確実に進行するよう、図書館協議会と連携して進捗管理に取り組み、市内各施設等における子ども読書事業の実施状況の把握と課題の整理を行いました。(図書館)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・更なる利用を促進するため、施設利用料の支払についてキャッシュレス決済等、利用者の利便性を高めるしくみが必要となっています。(社会教育課)</li> <li>・利用する世代の高齢化や固定化が進んでいる中で、子ども・若者や現役世代のニーズを把握し、多世代の利用を促進する必要があります。(公民館)</li> <li>・コロナ禍により大きく落ち込んだ図書館の利用率は未だ回復せず、前期基本計画の数値目標には届いていない。新施設においても利用率向上に向けた様々な取り組みが必要です。(図書館)</li> </ul>



## 参考指標

・公民館利用者数(人)

【目標値(170,000)】

(H30) (R2) (R3) (R4)

150,316 → 62,375 → 73,439 → 107,588

・図書館の利用率(%)

【目標値(20.0)】

(H30) (R2) (R3) (R4)

16.0 → 11.7 → 14.0 → 13.9

・昨年1年間に学びの活動・体験をした市民の割合(%)

【目標値(29.0)】

(H30) (R2) (R3) (R4)

24.4 → 37.8 → 35.8 → 27.6

<p align="center"><b>施策の現状と課題(前期基本計画)</b></p>	<p align="center"><b>方向性3 学びを活かす機会の充実</b></p>
<p>・生涯学習団体の更なる活性化及び生涯学習の更なる推進を目的として、市内の生涯学習団体をまとめた冊子やその電子版を作成していますが、多様化する市民の学習ニーズに応えるため、学ぶ機会の提供や必要な情報発信、学びを通じた交流による仲間づくり、関係機関等と連携した学びの支援等を行っていく必要があります。また、市民の学びの成果の活用や地域への還元等、学びの循環のための仕組みづくりが求められています。</p>	<p>→</p> <p>市民の学びの成果を、地域における課題の解決等、市民が自主的・自発的に地域のために活用していけるよう、市民協働や市民活動支援センター(こまえくぼ1234)を軸とした関係団体等との連携も含めて、次世代を担う人材の育成・発掘や学びからつながるネットワーク等の支援を行います。</p>
<p align="center">↓</p>	
<p align="center"><b>現状</b></p>	<p align="center"><b>課題</b></p>
<p>・市内団体の文化及びスポーツ等の活動の場として、学校施設を開放し、活動の推進を図っています。(社会教育課)</p> <p>・公民館利用団体に公民館が主催する講座の講師として協力いただくほか、公民館交流事業において利用団体の日々の活動の成果を発表する場を提供するなど、学びを活かす機会の充実を図っています。(公民館)</p> <p>・「第四次狛江市子ども読書活動推進計画」に基づき、市内のおはなしグループの把握に努め、協働しておはなし会等の各種イベントを実施したことに加え、希望するグループの情報を市内の関連施設へ提供し、図書館以外でも活躍できる機会の充実を図っています。(図書館)</p>	<p>・更なる利用を促進するため、施設利用料の支払についてキャッシュレス決済等、利用者の利便性を高めるしくみが必要となっています。(社会教育課)</p> <p>・市民の学びの成果を地域に還元するためにも、改修後の市民センターでの市民活動支援センターとの連携強化を図る必要があります。(公民館)</p> <p>・現在の市民1人当たりの蔵書冊数は人口同規模市等と比較して少なく、市民アンケートや市民ワークショップ等では蔵書の充実を望む意見を多くいただいています。そうしたご意見を踏まえて策定した「新図書館整備基本構想」に基づき、市として望ましい蔵書の規模や構成、適切な所蔵方法の実現を図ることが必要です。(図書館)</p>
<p><b>参考指標</b></p>	
<p>・公民館利用者数(人) 【目標値(170,000)】 (H30) (R2) (R3) (R4) 150,316 → 62,375 → 73,439 → 107,588</p> <p>・図書館の利用率(%) 【目標値(20.0)】 (H30) (R2) (R3) (R4) 16.0 → 11.7 → 14.0 → 13.9</p> <p>・昨年1年間に学びの活動・体験をした市民の割合(%) 【目標値(29.0)】 (H30) (R2) (R3) (R4) 24.4 → 37.8 → 35.8 → 27.6</p>	

施策6-②	
芸術文化・スポーツの振興	
目指す姿	一人ひとりが自分らしいスタイルで芸術文化・スポーツ等をいつでも気軽に楽しむことができ、心身ともに健やかな生活を送ることができています。

施策の現状と課題(前期基本計画)	方向性I 芸術文化に触れる機会の充実
<p>・音楽事業については、駅前ライブのほか、近年は大規模な事業を開催しており、絵手紙事業については、絵手紙ひろばや小中学校への講師派遣を行う等、市民が身近に芸術文化に触れることができる機会の提供に努めています。一方で、市民アンケートによると、芸術文化活動に触れる機会がある市民の割合は、近年は横ばい傾向にあります。そのため、市民の生きがいづくりや豊かな心の育成、芸術文化の振興を図るため、より一層の取組が求められます。</p> <p>・粕江の特色ある地域文化の醸成に向けて、音楽や絵手紙等の様々な事業を行っており、市内だけでなく近隣の自治体からも参加していただいています。このような音楽や絵手紙をはじめとした粕江の文化を次の世代へと継承させていくためには、新たな世代への働きかけや工夫が必要です。また、そのためには、芸術文化活動に関わる人材・団体の育成や活躍の場の提供等についても推進していく必要があります。</p>	<p>→ 学校や関係機関と連携し、子どもから高齢者まで多くの市民が芸術文化に身近に触れることができる機会の提供や、積極的な情報発信を行います。</p>



現状	課題
<p>・令和2年5月に動画配信サービスの専用チャンネルを開設し、粕江文化芸術活動支援奨励金などの事業に活用しました。また、令和4年12月から令和5年3月に市民ホールリニューアルオープン記念として、粕江市出身の溝口肇コンサートや桐朋学園大学の企画協力によるピアノまつりなどを実施しました。(地域活性課)</p> <p>・クリスマスコンサートや映画会を開催するなど公民館の事業を通して芸術文化に触れることができる機会を提供しています。(公民館)</p>	<p>・広報誌(ピックアップガイド)、ホームページ、SNS、動画配信サービスの専用チャンネルなど、情報発信の手段は揃ったが、鑑賞者アンケートの結果では70歳以上の割合が38.3%と最も高く、30歳代以下は1割程度であり、若年層に興味を持ってもらう取組の強化が必要です。(地域活性課)</p> <p>・内容のマンネリ化や参加者の固定化を解消するため、内容の充実や情報発信の方法を新たに検討する必要があります。(公民館)</p>

参考指標
<p>・公民館利用者数(人) 【目標値(170,000)】 (H30) (R2) (R3) (R4) 150,316 → 62,375 → 73,439 → 107,588</p> <p>・昨年1年間に芸術文化活動を行ったり、鑑賞したりしたことのある市民の割合(%) 【目標値(47.0)】 (H30) (R2) (R3) (R4) 43.0 → 46.5 → 44.8 → 36.4</p>

施策の現状と課題(前期基本計画)	方向性2 芸術文化活動の推進
<p>・音楽事業については、駅前ライブのほか、近年は大規模な事業を開催しており、絵手紙事業については、絵手紙ひろばや小中学校への講師派遣を行う等、市民が身近に芸術文化に触れることができる機会の提供に努めています。一方で、市民アンケートによると、芸術文化活動に触れる機会がある市民の割合は、近年は横ばい傾向にあります。そのため、市民の生きがいづくりや豊かな心の育成、芸術文化の振興を図るため、より一層の取組が求められます。</p> <p>・狛江の特色ある地域文化の醸成に向けて、音楽や絵手紙等の様々な事業を行っており、市内だけでなく近隣の自治体からも参加していただいています。このような音楽や絵手紙をはじめとした狛江の文化を次の世代へと継承させていくためには、新たな世代への働きかけや工夫が必要です。また、そのためには、芸術文化活動に関わる人材・団体の育成や活躍の場の提供等についても推進していく必要があります。</p>	<p>・地域での多様な芸術文化活動を支えるとともに、芸術文化活動に関わる人材・団体の育成や活躍の場の提供、芸術文化活動を通じた生きがいづくり等を推進していきます。</p> <p>・音楽や絵手紙等の狛江らしい芸術文化活動を促進していくとともに、市民ホールの指定管理者とも連携し、ホールの活用や事業の充実を進めていきます。また、芸術文化活動の拠点として、市民ホールの計画的な改修等を行います。</p>
	
現状	課題
<p>・令和3、4年度に芸術文化の拠点である市民ホールの老朽化した設備機器の更新や照明のLED化、ホール客席及びホワイエの天井耐震化の他、福祉対応としてバリアフリートイレの改修や授乳室の新設等の改修工事を実施しました。(施設課)</p> <p>・市民ホールについて、令和3年9月1日から令和4年12月10日まで改修工事を行い、空調・換気設備の更新、ホール及びホワイエの天井の耐震化、オストメイト対応トイレ及び赤ちゃんスペースの設置、客席や内装のリニューアルなどを行いました。リニューアルオープン後はホール稼働率69.6%となり、令和3年度と比較して22.8ポイントの増加となっています。(地域活性課)</p> <p>・公民館利用団体で組織する実行委員会が「いべんと西河原」「中央公民館のつどい」を開催し、日々の活動の成果を展示やコンサートで発表することで利用者同士や市民との交流を深め、芸術文化活動を推進しています。(公民館)</p>	<p>・音楽や絵手紙といった狛江らしい芸術文化活動を牽引する実行委員の高齢化や固定化が見られることから、新たな人材等の育成が求められています。(地域活性課)</p> <p>・引き続き、公民館利用団体の自主的な活動を支援するとともに、活躍の場を提供する必要があります。(公民館)</p>

参考指標

・公民館利用者数(人)

【目標値(170,000)】

(H30) (R2) (R3) (R4)

150,316 → 62,375 → 73,439 → 107,588

・昨年1年間に芸術文化活動を行ったり、鑑賞したりしたことのある市民の割合(%)

【目標値(47.0)】

(H30) (R2) (R3) (R4)

43.0 → 46.5 → 44.8 → 36.4

施策の現状と課題(前期基本計画)	方向性3 スポーツへの参加機会の充実												
<p>・市民アンケートによると、週1回以上の頻度でスポーツ活動をしている市民の割合は、近年は微増傾向にあります。また、平成31(2019)年度にラグビーワールドカップ2019が開催され、令和2(2020)年度には東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されることから、市民のスポーツに対する関心も一層高まっていくことが期待されます。</p> <p>これらを契機に、スポーツに気軽に触れる機会の提供から競技能力の向上まで、それぞれの目的に応じた取組を支援していく必要があります。また、スポーツを身近に感じていない人に対してスポーツに親しむきっかけづくりを行うに当たっては、単なるスポーツの促進だけでなく、仲間づくりという視点等にも着目して検討していく必要があります。</p>	<p>誰もがスポーツに気軽に参加できる取組を行っていくことで、スポーツを身近に感じ、スポーツを楽しむきっかけづくりを行います。また、関係団体と連携し、各種事業の積極的な情報発信を行うとともに、地域で活動するスポーツ団体の紹介等を行うことで、スポーツ活動への興味関心を高め、参加と仲間づくりを促進します。</p>												
現状	課題												
<p>・スポーツを楽しむきっかけづくり、世代を超えて、誰もが、いつでも、どこでも気軽にスポーツを楽しむことができるよう、生涯スポーツの推進を図り、仲間づくり、体力向上や生きがいづくりにつなげるため、各種スポーツ大会や教室を実施しています。(社会教育課)</p> <p>・地域のスポーツ関係団体と連携するほか、協定を締結している研究所やスポーツ団体についても連携した事業を実施しています。(社会教育課)</p>	<p>・市民のスポーツ活動の拠点となる市民総合体育館は建築から築35年以上が経過し、設備機器等様々な部位で老朽化が進んでいます。(施設課)</p> <p>・体育施設の利用者数がコロナ禍前まで回復せず、スポーツにつなげる取組が必要となっています。(社会教育課)</p>												
参考指標													
<p>・学校施設貸出件数(件)</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">(R2)</td> <td style="text-align: center;">(R3)</td> <td style="text-align: center;">(R4)</td> </tr> <tr> <td>体育館</td> <td style="text-align: center;">1,321</td> <td style="text-align: center;">→ 1,446</td> <td style="text-align: center;">→ 2,650</td> </tr> <tr> <td>武道場</td> <td style="text-align: center;">55</td> <td style="text-align: center;">→ 92</td> <td style="text-align: center;">→ 169</td> </tr> </table>			(R2)	(R3)	(R4)	体育館	1,321	→ 1,446	→ 2,650	武道場	55	→ 92	→ 169
	(R2)	(R3)	(R4)										
体育館	1,321	→ 1,446	→ 2,650										
武道場	55	→ 92	→ 169										

<p>施策の現状と課題(前期基本計画)</p>	<p>方向性4 ライフステージに応じたスポーツの推進</p>
<p>・市民アンケートによると、週1回以上の頻度でスポーツ活動をしている市民の割合は、近年は微増傾向にあります。また、平成31(2019)年度にラグビーワールドカップ2019が開催され、令和2(2020)年度には東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されることから、市民のスポーツに対する関心も一層高まっていくことが期待されます。</p> <p>これらを契機に、スポーツに気軽に触れる機会の提供から競技能力の向上まで、それぞれの目的に応じた取組を支援していく必要があります。また、スポーツを身近に感じていない人に対してスポーツに親しむきっかけづくりを行うに当たっては、単なるスポーツの促進だけではなく、仲間づくりという視点等にも着目して検討していく必要があります。</p>	<p>→</p> <p>・ライフステージに応じて、誰もが、いつでも、どこでも気軽にスポーツを楽しむことができるよう、障がい者スポーツを含めた生涯スポーツの推進を図り、体力の向上や生きがいづくりにつなげます。</p> <p>・競技力向上に向けて、個人や団体の育成、スポーツ指導者の資質向上を図ります。また、様々な年代による多様なスポーツ活動を支える拠点として、体育施設の計画的な改修等を行います。</p>
<p>↓</p>	
<p>現状</p>	<p>課題</p>
<p>・スポーツを楽しむきっかけをつくり、世代を超えて、誰もが、いつでも、どこでも気軽にスポーツを楽しむことができるよう、生涯スポーツの推進を図り、仲間づくり、体力向上や生きがいづくりにつなげるため、各種スポーツ大会や教室を実施しています。(社会教育課)</p> <p>・障がい者スポーツを含めた生涯スポーツの推進を図るための障がい者スポーツ教室、多摩川を活用したスポーツ事業として、多摩川スポーツ教室を実施しています。(社会教育課)</p>	<p>・体育施設の利用者数がコロナ禍前まで回復せず、スポーツにつなげる取組が必要となっています。(社会教育課)</p> <p>・健康寿命を伸ばすためにも生涯を通じてスポーツに親しむ環境づくりが求められています。熱中症リスク等の対策も踏まえて、体育施設の充実が必要です。(社会教育課)</p>
<p>参考指標</p>	
<p>・週1回以上、何らかの運動やスポーツをしている市民の割合(%)</p> <p>【目標値(70)】</p> <p>(H30) (R2) (R3) (R4)</p> <p>60.1 → 67.5 → 65.0 → 63.7</p>	

施策6-③

歴史への理解と継承

目指す姿

市内に数多くある古墳や史跡等、狛江の歴史の中で生まれ残されてきた様々な文化財に市民が身近に触れ、親しむことで、狛江への関心と愛着が生まれ、狛江の歴史と文化が次世代に継承されています。

施策の現状と課題(前期基本計画)

・市民一人ひとりの狛江への理解や愛着の形成により市民の生きがいや狛江の文化の発展を図るため、狛江の歴史を次世代に継承していく必要があります。狛江の歴史に身近に触れることができるよう、市史編さんにおいて集積した資料や、遺跡の発掘調査の出土遺物、寄贈された民具類等、歴史的資料を良好な状態で保管・收藏しつつ、それらを市民に還元するために活用できる展示・收藏施設の確保についての検討や適切な情報発信を行っていく必要があります。

・猪方小川塚古墳や亀塚古墳の保存整備工事を行い、歴史公園の開園に向けた準備を進めているほか、市指定文化財等の説明板の新設・更新を行っています。また、狛江市は、遺跡や古墳が多いまちであり、発掘調査で出土した書物や寄贈を受けた民具については、小学校への出前講座や古民家園での体験学習等で活用する等、子どもが実物の資料に触れる機会を提供していますが、狛江の歴史を継承していくためには、市民への更なる周知や活用方法について検討していく必要があります。

方向性 | 歴史の継承と文化財の保存



・関係機関等と連携し、幼少期等の早期から狛江に残された文化財や伝統的な文化に触れる機会を提供することで、狛江の歴史を身近に感じ、狛江への愛着や歴史に関心を持つきっかけづくりを行います。また、歴史を次世代に継承するための人材の確保を図ります。

・市民が身近に狛江の歴史に触れ、親しむことができるとともに、後世に継承されていくよう、狛江の歴史や文化財等を分かりやすく公開していくほか、効果的な情報発信を行います。また、文化財等を適切に保存・継承しつつ、効果的に活用できるような保管・展示場所の確保について、具体的検討を進めます。



現状

・小・中学生に文化財に関するガイドブックやパンフレットを頒布するとともに、小学校6年生については、狛江の遺跡と古墳に関する出前学習を実施しています。また、古民家園では、子どもを対象にした伝統文化や生活文化の体験教室を実施し、子ども達が文化財や伝統文化等に触れる機会を提供しており、大人についても、文化財の現地公開や文化財に関する講座・講演会を実施しています。また、狛江の歴史や文化財に関する刊行物を作成して情報発信するなど、狛江の歴史や文化財に親しむ機会を提供しています。

・文化財等の保管・展示場所の確保については、庁内検討委員会を立ち上げ、まずは保管場所について具体的に検討を進めます。(社会教育課)

課題

・狛江の歴史や文化財に親しむ機会を提供から一歩進んで狛江の歴史や文化財を次世代に継承する担い手を育成するまでには至っておらず、文化財に関する講座等を実施する中で、狛江の歴史や文化財に深く関心を持つ潜在的な担い手の掘り起しが必要です。文化財等の保管場所について検討を進めるとともに、文化財等の効果的な活用の拠点となる展示場所についても具体的に検討していきます。(社会教育課)

参考指標

・市の歴史や伝統に関心のある市民の割合(%)  
【目標値(57.0)】  
(H30) (R2) (R3) (R4)  
51.5 → 58.3 → 57.4 → 51.0

<p>施策の現状と課題(前期基本計画)</p>	<p>方向性2 文化財の活用の推進</p>
<p>・粕江に残された文化財等を広く周知していくための取組として、古民家園や歴史公園を核とした散策のための文化財マップを平成31(2019)年度に作成しました。また、古民家園については、必要な施設の維持管理・修繕を進めるとともに、市内に点在する歴史的な有形無形の資源を活用した講座・教室の充実に向けて適宜検討を行っていますが、市民にとって身近に粕江の歴史を親しむことができる場所として、更なる事業展開を検討する必要があります。</p>	<p>→</p> <p>・猪方小川塚古墳等、順次整備していく歴史公園について、他の文化財とともに効果的に活用するための方策を検討し、子どもから高齢者まで誰もが粕江の歴史を身近に感じることができるよう取組を行います。</p> <p>・古民家園については、地域に密着した施設として歴史を身近に親しんでもらうため、市内に点在する有形無形の文化財や史跡の活用等を含めて、体験学習や魅力を伝える場所として活用していくとともに、長期的な視点に立った施設整備や管理を行っていきます。</p>
<p>↓</p>	
<p>現状</p>	<p>課題</p>
<p>・古墳を活用する施策の一つとして公園整備を進め、猪方小川塚古墳公園、亀塚古墳公園、土屋塚古墳公園の3つの古墳公園を開園し、公園の開園に合わせて古墳を巡るウォークラリーを企画するなど、活用を進めています。</p> <p>古民家園については、伝統文化や生活文化を体験する教室等を実施するだけでなく、ロケーションを活かした能楽の鑑賞会や箏曲の演奏会等を実施するなど、粕江の魅力を伝える場としても活用しています。また、地域の方々等から成る「みんなのむいから民家園事業実行委員会」が、古民家園の効果的な活用方法を模索しつつイベントを実施し、地域に密着した施設として活用を進めている。</p> <p>古民家園の施設管理については、古民家を良好な状態で次世代に継承するため、令和4年度に茅葺屋根の総葺き替えを行うなど、文化財を適切に維持管理しています。(社会教育課)</p>	<p>・白井塚古墳の公園整備に先立ち発掘調査を行ったところ、墳頂部に河原石で構築された貴重な主体部(礫郭)が複数遺存していることが確認され、公園の整備方針を検討するに際しては、専門家を交えて慎重に議論を重ねていき、その結果を受けて、貴重な主体部に適切な保護・保存の措置を施し、公園整備を行う必要があります。(社会教育課)</p> <p>・古民家園では、開園20周年を機に茅葺屋根の総葺き替えを行いました。開園時に復元した建具や外壁等の部材には経年劣化が見られています。文化財建造物については、長期的な修繕計画を立てることは困難ですが、日常的な管理の中で状態を確認し、修繕の必要性を見極めるなど、次世代に良好な状態で継承できるよう、適切な管理と整備を進める必要があります。(社会教育課)</p>
<p>参考指標</p>	
<p>・市の歴史や伝統に関心のある市民の割合(%)</p> <p>【目標値(57.0)】</p> <p>(H30) (R2) (R3) (R4)</p> <p>51.5 → 58.3 → 57.4 → 51.0</p> <p>・白井塚古墳の発掘調査現場見学会</p> <p>参加者:250人(R4)</p>	